

No.3

わかやま

2000年4月

和歌山県精神保健福祉センターだより

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319

和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

電話(073)435-5194 FAX(073)435-5193

「精神保健福祉センターに期待するもの」

和歌山県立医科大学 神経精神科

教授 吉益文夫

和歌山市のほぼ中心部に平成10年12月に新しい精神保健福祉センターがオープンし、朝井忠所長以下総数4名のスタッフが一丸となってチームワークを発揮しつつ、活動を開始されたことはご同慶に堪えません。“こころの世紀”と呼ばれている21世紀を目前にしたミレニアムの年に当たって、当センターが今後果たすべき社会的役割を考える時、その重要性はいくら強調してもし過ぎることはいないと存じます。少数のスタッフで電話相談や来所相談など、こころの健康に関する相談活動や特定事業として、アルコールや思春期の定期的な相談やこれに関連する研修会を催されたり、又昨年9月には全国から約200名の参加者を集めて老人性痴呆疾患保健医療指導者研修会を開催され好評を得たことなど、関係者のこれまでの地道な努力に対して敬意を表する次第です。もとよりこころの健康に関する問題は、老若男女を問わず全ての人に関わるもので当事者の問題としてのみではなく、家族関係、社会病理などを含めた複雑多岐な要素の集合として把握・理解する必要があることは言うまでもありません。日常の精神科臨床の場面でも旧来の精神疾患の他に、不登校、摂食障害など児童・思春期の若者の増加、薬物依存、とくに覚醒剤依存者の低年齢化、中年期のストレス関連障害や、災害や事故による心的外傷後ストレス障害(PTSD)、さらに初老期～老年期には痴呆性疾患が今後増え続けることなどが注目されています。また医療面のみでなく、福祉面が重視されるようになり、周知のとおり1988年に施行された「精神保健法」が1995年に「精神保健福祉法」と改名・施行され、翌年より政府は「障害者プラン(ノーマライゼーション7ヶ年戦略)」をスタートさせ、2002年までに精神病院から約1割の患者さんが退院することを目指し、そのための社会資源の整備を進めていくという大きな転換期を迎えています。このような時期に際して当センターの責務はますます重大なものとなりスタッフ各位の一層のご奮闘を期待すると共に、関係行政当局ならびに県民の皆さんのご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

保健所シリーズ 第2弾！ 和歌山市保健所のごあんない

和歌山市保健所は、管内約39万人を抱える和歌山市の保健所です。和歌山市保健所の精神保健福祉サービスや資源として以下の取組みが挙げられます。

精神保健福祉サービス

<相談>

①定期相談Ⅰ：嘱託医による精神科治療や社会復帰に関する相談など。

月2回：第1・3木曜日 午後1時～3時

②定期相談Ⅱ：嘱託医による摂食障害やアルコール・

シンナーなどの依存症の相談など。

月1回：第2木曜日 午後1時～3時

③相談員や保健婦による相談

：随時受け付けています。

<グループワーク>

①精神障害者社会復帰相談指導事業（デイケア）

第1・3木曜日の午前中開催。レクリエーションなどを通じて在宅精神障害者の社会参加などを主な目的としています。

②地域生活支援ルーム（通称：ドロップインコーナー）

週5日開催。事前に登録した精神障害者が週2～5日通所します。専任指導員とともに生活する中で社会生活技能の獲得や、共同作業所などへの参加を目指します。

③精神障害者家族教室

精神障害者の家族の方を対象に一年間で10回開催しています。医師や精神科看護、精神保健福祉相談員による講義や、当事者による講演、またロールプレイを活用し家族が精神障害者の社会復帰の最も力強い協力者となることを目指します。

④嗜癖問題を抱える家族の集い

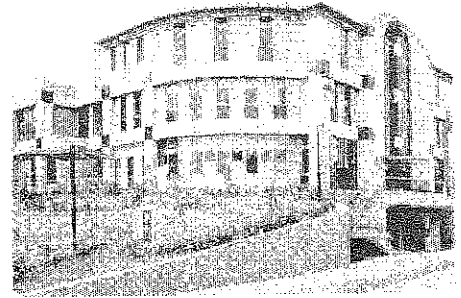
年間10回開催しています。アルコール依存や薬物の乱用を始めさまざまな嗜癖に苦しむ当事者の家族が、当事者への適切な対応を学びます。また自己体験を語り合うなかで、お互いが持つ問題を確かめ合います。

<訪問>

訪問は、在宅精神障害者と家族の間で解決が困難な問題がある時、医療を受けることを拒否している時、服薬を拒否している時、主治医から依頼があった時などに、その必要性に応じて行います。精神保健福祉相談員及び精神保健福祉班保健婦の単独訪問、両者の同伴訪問、さらには精神科医の同伴訪問など、その状況と必要性により方法は異なります。

<危機介入>

精神障害者や家族が、なんらかのきっかけで日常生活や家庭生活の危機をもたらす時や命の危機を招いた時は、適切な介入を行い事態を軽くすませることが必要です。そういった時に専門家などの助言や支援があると状況を乗り越えることが可能となります。なかには、緊急に濃厚な精神科医療が必要となることがあり、精神保健福祉相談員が外来受診や入院に同伴することがあります。現在、和歌山県休日夜間精神科救急医療システ



ムが実施されましたが、まだ市内に精神科の救急指定病院がないことや、安全な受診手段の確保など、問題は山積しています。

<精神保健福祉ボランティア育成講座・市民講座>

和歌山市保健所では、平成10年度より3年計画で精神保健福祉ボランティア講座に取り組んでいます。講座では、精神疾患や障害についての理解を深め、精神保健福祉ネットワークの一環として主体的に活動できるボランティアの育成を目指しています。

さらに、市民講座は、より多くの市民の方が精神保健福祉に関心を持って下さる事を期待し開催しています。

<精神障害者サマーキャンプ>

和歌山市内の共同作業所や診療所デイケアさらに保健所デイケア・ドロップインコーナーに通所している当事者の方を対象に1泊2日のキャンプを行っています。平成11年度は、約70名の参加がありました。

社会復帰のための資源

今後は、障害者プランに掲げた目標の達成に向けて整備を推進していく必要があります。

施設・事業名	設置主体	名称
精神障害者生活訓練施設（援護寮）	社会福祉法人一麦会	麦の芽ホーム
精神障害者授産施設	社会福祉法人一麦会	麦共同作業所
精神障害者福祉工場	社会福祉法人一麦会	ソーシャルファームピネル
精神障害者地域生活援助事業 （グループホーム）	社会福祉法人一麦会	麦の郷社員寮
	医療法人 宮本会	あすなろ
精神障害者小規模作業所	運営委員会	アキバ作業所
	運営委員会	いこいの家共同作業所
	運営委員会	つむぎ共同作業所
	運営委員会	ひまわり作業所
精神障害者社会適応訓練事業	有限会社	障害者自立工場
	個人	喫茶 たけのこ
地域生活支援センター	社会福祉法人一麦会	麦の郷高齢者・障害者 地域生活支援センター

地域サポートシステム

<和歌山市精神保健福祉業務担当者連絡会議>

平成8年11月に開始しました。2ヵ月に1回、和歌山市保健所に市内で精神保健福祉に関わる実務者が集い、業務を円滑に進めるための情報交換や理論の学習を行うことを目指しています。実務者の集いのため、守秘を厳守した事例検討が主となります。

<和歌山市精神障害者地域生活自立支援委員会>

平成10年1月に開始しました。和歌山市内の精神障害者の効果的な地域生活支援を探ります。委員会は、医師・精神医学ソーシャルワーカー・保健婦・社会復帰施設職員・共同作業所職員で精神障害者の地域生活支援に関わっている者で構成しています。

文責 和歌山市保健所 保健対策室 精神保健福祉班

事業報告

★平成11年度こころのケア研修を終えて★

平成12年2月3日、4日の両日、精神保健福祉センターにおいて、「こころのケア研修」を開催しました。被害者支援センターや警察からも参加があり、当初の定員を上回る53名の方に参加いただき関心の高さがうかがわれました。残念ながらお断りした方もあり、この場を借りてお詫びします。すいません。

研修会は2日間で6講、朝から缶詰状態で行われ、大変なハードスケジュールでしたが、みなさん熱心に講義を受けられていました。参加者の内7割の方がアンケートに答えていただきました。多くの方に「わかりやすかった」「有意義な研修だった」「40名程度の参加者ではもったいない」「PTSDの概念が整理できた」など、講義の内容ではよい評価をいただきましたが、一方では、「疲れた」「もっと休み時間をとって頭をリフレッシュしたい」「参加者同士の交流する時間を作って情報交換がしたかった」など、プログラムに関してのご意見をいただき参考になりました。これからの研修に役立てていきたいと思えます。また、「今後どんな研修を取り上げてほしいですか」では、「ドメスティックバイオレンス」「T.F.T」「子どものいじめ」「児童虐待を受けた人へのケア」「地域メンタルヘルス」などいろんな意見をいただきましたので、今後考えていきたいと思えます。

参加者職種	
保健婦士	15名
看護婦士	6名
PSW	7名
医師	4名
発達相談員	3名
臨床心理士	2名
その他の相談員など	16名

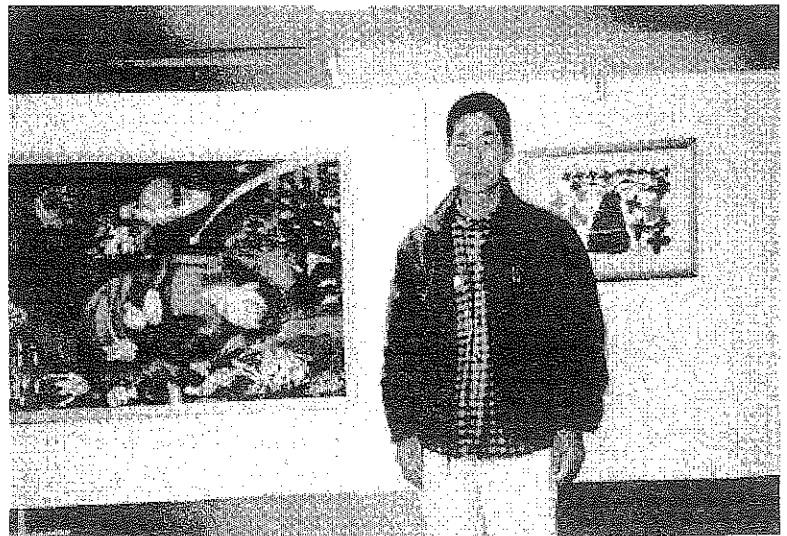
研修について	
知識ができた	23名
実践にいかしてみたい	19名
充実感が得られた	17名
アイデアが得られた	13名
思考が明確になった	13名
問題解決の糸口を得られた	12名
かえって混乱した	1名
その他	6名

研修アンケートより

“心に平和を” 絵画展を開催しました。

当センターの交流ロビーにて、3月21日から24日の4日間にわたり、絵画のロビー展を開きました。高知・千葉・岩手・和歌山の精神障害者の方たちが描いた力作25点を、ビッグ愛を訪れる県民をはじめ保健所デイケアのメンバー、関係機関の方々が多く鑑賞されました。今回の県外の作品は「高知心に平和を実行委員会」からお借りしました。この実行委員会では、精神障害者の方が病院や家庭で描いた原画を元にカレンダーやポストカードの作成・販売や原画展の開催によって精神障害者の理解を図る啓発活動を行っています。

(センターにてポストカードを販売中です。)

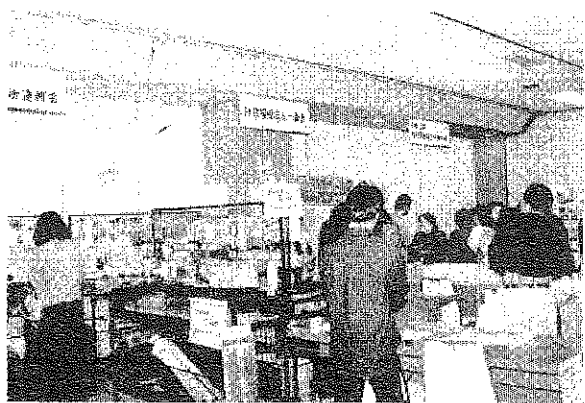


期間中、原画を指導されている高知県の織田先生がセンターに立ち寄ってくれました。とてもすてきな絵画展でした。今後もいろんな形で、交流ロビーの活用をしていきたいと考えています。

わかやまこころのフェスティバル2000 開催される!

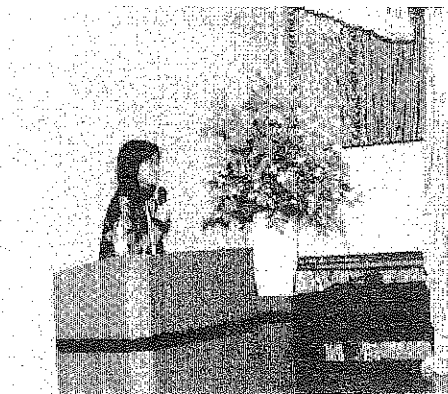
平成12年3月11日(土) **わかやまこころのフェスティバル2000**が開催されました。精神保健福祉などの関係団体20数組が県勤労福祉会館プラザホープに集まりました。当日はあいにくの曇り空、午後からは小雨が降ったりやんだりとぐずついたお天気でした。参加来場者推定600名といったところでしょうか。

開会式はステージで和太鼓サークル「**籠篋**」の太鼓演奏で始まり、主催、来賓の挨拶の後、「**しゅびーれんベルリンガーズ**」によるハンドベル演奏。映画「**タイタニック**」のテーマなど数曲を披露。最後に登場する「**手話サークル**」と急遽一緒になって「**ドラえもん**のテーマ」を手話とハンドベルの競演で見せてくれました。(ハンドベルがこんなにすばらしいものだとは知りませんでした…) その後も「**南部ひかるさんと高下真さん**」によるギター演奏や「**手話サークル**」による手話コーラスなどで盛り上がりました。ボランティアで参加していただいたみなさんありがとうございました。



一方、展示ホールでは県内の家族会や作業所の物販、展示。つむぎ作業所の100円ショップや麦の郷のパンの販売、紀の国会のコーヒーショップ等も好評でした。また、精神保健福祉協会の催した岩手、千葉、高知の精神障害者の描いた絵画展や精神病院協会の県内の精神科に入院する仲間たちの作品展示もすばらしいものがありました。その他、てんかん協会のパネル展示とビデオ上映、断酒会のパッチテスト、ソーシャルワーカー協会はリラクゼーションコーナーを開きストレスチェックとハーブティーのサービスをしてくれました。

午後からはステージにおいて精神科医でテレビや雑誌などでもおなじみの**香山リカ**先



生の『**子どものこころに何が起きたか**』と題した講演会が行われました。約300名の参加者が熱心に先生の講演に耳を傾けられていました。成長の過程で変化していく子どものこころを親がどのように受け止めればよいか、テレビゲーム世代の子どもたちは本当にコミュニケーションを断っているのかなどを予定の1時間30分いっぱいまで話していただきました。会場でとったアンケートでも85%の人によかったと答えていただきました。子どもの話が中心でしたが、最後には

精神障害者が精神病であるというだけで差別や偏見を受けている現状を先生自身の体験に基づき話していただき、これまで精神障害者と出会ったことのない県民の方に、少しでも理解していただくきっかけになったのではないかと感じました。

全国の主な研修会・学会のお知らせ

日程	名 称	開催地	主催及び連絡先
5/10~12	日本精神神経学会	仙台市	東北大学医・神経精神科 022-717-7262
5/18~20	日本家族研究・家族療法学会	大宮市	東海大学医・精神科 0463-93-1121
5/24~26	日本精神科看護学会	高松市	日本精神科看護技術協会 042-363-6663
5/25~27	日本作業療法学会	横浜市	横浜リハビリテーション専門学校 045-989-5534
6/10~11	日本家族心理学会	東京都	白梅学園短期大学 0423-42-2311
6/16~17	日本アルコール関連問題学会	山口市	慈圭病院 086-262-1191
6/30	日本精神保健福祉士協会学会	東京都	国立武蔵病院 0423-41-2711
7/29~30	日本ロールシャッパ学会	札幌市	北星学園大学(予定)
8/4~5	日本アルコール精神医学会	神奈川県相模原市	北里大学東病院・精神科 0427-48-9111
8/19~20	日本カウンセリング学会	福岡県久留米市	久留米大学・文学部(予定)
9/13~14	日本精神障害者リハビリテーション学会	北海道帯広市	帯広ケアセンター 0155-59-2739

センター研修会のお知らせ

平成12年度最初の研修会を計画しました。みなさんの参加をお待ちしています。

児童・思春期精神保健研修

児童、思春期にかかわる保健、医療、福祉、教育の分野で働く職員の対応技術の向上を目的とします。

とき：平成12年5月27日(土)

場所：精神保健福祉センター

内容：「思春期の問題とその対応について」 和歌山信愛女子短期大学 保育科 関根 剛 助教授
 「青春期と幼児期の心とからだ」 北九州津屋崎病院 青春期内科 森 崇 部長

お問い合わせは和歌山県精神保健福祉センターまで

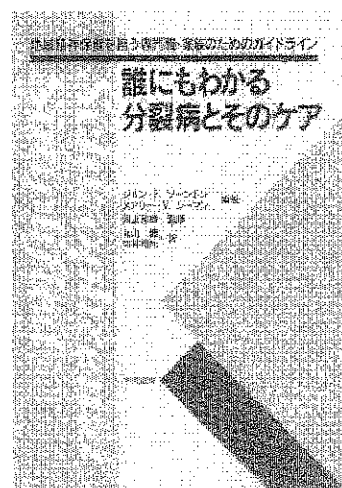
おすすめします。図書、ビデオ。

センターの図書館にある書籍やビデオ、書店に並べられた新刊などをみなさんにご紹介します。

「誰にもわかる分裂病とそのケア」

「分裂病」その知識の整理のためのこの一冊。本書は分裂病の病理に始まり、初発の症状、再発の症状をわかりやすく解説しています。また、注目すべきは家族や地域のサポート、法体系といった従来縦割りにされがちだったそれぞれのシステムを、フローチャートを用いて統合的にみせてくれます。分裂病のケアの道順を線路にたとえるならば、分岐点に立って今の位置を知らせ、行く先を案内するようなガイドブックのような本です。

ジョン・F・ソートマン他編
 岡上和雄監修
 丸井晋・中井和代訳
 中央法規出版 1,942円



編集雑記

4月の人事で、心理職が異動となりました。新しく異動をしてきた人は、落ち着いた雰囲気ややセンターの平均年齢を上げそうな女性です。今年度は研修会の種類も増え、また精神障害者ケアマネジメント及びホームヘルパー試行的事業も開始予定です。新しいメンバーでこの一年間頑張っていきます。みなさんからのご意見や原稿いつでもお受けいたします。よろしくお願いたします。(編集長M)